



植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成30年11月19日 NO. 115

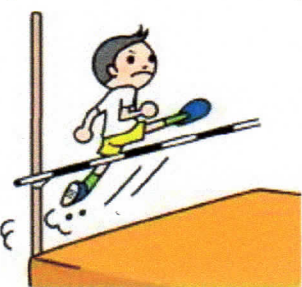
ミスしていいんだよ

15日(木)～16日(金)、佐賀市で開催された全国学校体育研究発表大会に出席した。全国から集まった小学校、教育行政関係者、500名を超える参加者は、講演やシンポジウム、公開授業という二日間の日程の中で熱心な協議が行った。とくに今回は、二日目の佐賀市立新栄小学校の公開授業について、感想を述べてみたい。

おくれそうであわていたら



玄関前でのあいさつ運動の出迎えを受けて、心も軽くなりながら体育館に入ると、賑やかな声とともに5年生が入ってきた。1校時は、体育館での保健の「けがの防止」についての学習だったが、いわゆるKYT(危険予測訓練学習)であった。一枚の写真の中に潜む危険を予測し、どのような行動を選択したり、環境を改善したりしなくてはならないかを活発に話し合っていた。学習規律もしっかり徹底されており、話を互いに傾聴し、ペア学習ではとくに活発に自分の思いを伝え合っていた姿が印象に残った。



2校時は、4年生の「高跳び」。体育館内に6つの場づくりを行い、3歩～5歩の助走で踏切足を意識させ、最後の一步をとくに強く蹴ることに注意しながら高跳びを楽しんでいた。運動量も多く、高跳びバーや支柱台など、先生のアイデアがいっぱい詰まっており、教材研究の深さを感じた。ただ、ほとんど走り高跳び状態の子どももいて、バーにスポンジは捲いてあるものの、勢いよくバーが飛んでいく場面が幾度もあり、そばにいる児童に当たりはしないかとハラハラしていた。さすがにあまりに危ないと思ったので、直接児童に注意するよう声をかけたが、助走の角度やマットの位置など、安全面での配慮がほしいと感じた。



3校時は、6年生のソフトバレー。最初に5分間ほど前時までの学習を振り返って、オフ・ザ・ボールの動きや構えでいい動きだった人をビデオをストップさせて紹介していた。「勝ちにこだわって、バレーを思いっきり楽しんでください。」先生の掛け声で、一斉にゲームが始まったが、1回目と2回目の触球はキャッチ、いわゆる握っていいルールで、難易度をかなり下げてあった。一番気になったのが、4人1チームで、2回か3回で相手コートに返球するのだが、2人だけでプレーするチームが多く、作戦なのかレシーブした人がトス後、アタックするパターンをやっている姿に、なぜ違う人が3回触れるようなルールを考えないのかが不思議だった。ミスをしない、勝つための作戦なのかもしれないが、もったいない気がした。

ミスは何のスポーツもつきもの。逆にミスがあるから面白いし、そのミスしたことを悔やむことよりも、次の自分たちの課題と捉え、練習等に取り組んだり、ミスを分析し、解決を図ることが、全員の思考・判断や創意工夫を生み出し、貴重な学びとなるのである。

17日(土) 県営八代運動公園野球場で開催された松中信彦三冠王記念旗学童野球大会開会式に出席してきた。ホームベース上のマイクの前で挨拶をした元プロ野球選手 松中信彦さんは「選手の皆さん、野球はミスをするスポーツです。10回のうち3回ヒットを打つと一流バッターと言われるのです。あとの7回は三振したり、アウトになったり、ミスしているんです。どうかミスを恐れず思いっきりプレーしてください。」と語られた。背中越しに見ていたが、マウンド付近に整列する多くの選手たちがうなずいている姿が頼もしかった。